

地球惑星科学委員会

地球・惑星圏分科会地球観測衛星将来構想小委員会（第26期・第3回）議事要旨

日時：令和7年6月17日（火）13:00-15:00

場所：オンライン会議（zoom）

出席委員：沖大幹、金谷有剛、佐藤薫、高薮縁、中島映至、古屋正人、村山泰啓、横山広美、
伊藤進一、江口菜穂、榎本浩之、沖理子、岡本幸三、笠井康子、重尚一、
杉山昌広、高橋暢宏、永井信、早坂忠裕、本多嘉明、増永浩彦（21名）

欠席委員：中村尚、岡本創、河宮未知生、ケオラ スックニラン、祖父江真一、中島孝、
中島英彰、樋口篤志、溝端浩平（9名）

（以上敬称略、名簿順）

議 題

1. 第2回会合の議事要旨確認
2. 録画の承認
3. 議事要旨の幹事会一任について
4. 話題提供：横山広美委員「科学の信頼は保てるのかー分断と不信」
5. CONSEOの活動状況について
6. TFの活動状況について
7. 国際的な状況について
8. 2025年度の活動について
9. その他

議事録：

1. 第2回会合の議事要旨確認
修正点がある場合には、本会議終了までに。
2. 録画の承認
録画することについて承認した。
3. 議事要旨の幹事会一任について
議事要旨の提出について、委員長に一任の旨、合意を得た。
4. 横山委員より、「科学の信頼は保てるのかー分断と不信」について話題提供があった。
質疑応答の時間には下記のような活発な議論があった。
Q：トランプ問題に関して、科学に対する無関心があるのではないかと感じている。
例えば、NASAの予算削減に対する議論が盛り上がっていない。

A：まだ、抑えられていない領域である。無関心層に対する研究はホットな話題である。公共放送の役割は大きいと考える。

Q：世界的に若い年代層は前半の議論で実施されているか？

A：日本の若年層が無関心なのが問題で、諸外国は逆。新興国か先進国かで違いがある。

Q：右派のリベラルと左派のリベラルが異なると学んでいる。欧州のリベラリズムは米国では変質して右派となったと認識している。

A：世界の共通軸を定めるの

Q：トラストの基準を教えてください。また、AIを通して科学者の事実が民間には歪められていることがある。

A：シンプルに「科学者を信頼しますか？」という内容。世界調査をした研究者は化学論の専門家で信義の専門家ではない。間違った事実に対して、科学者は訂正する必要がある。

Q：「信頼」が重要なキーワードとなるが、人それぞれは限られた知識しかない。科学を漠然と信頼するが、自分自身の生活環境・宗教などで行動が決まり行動原理に結びついていないのではないか。

A：個人でできないことは政府が実施すべきである。日本の場合は、政府に対する信頼は低いがコロナワクチンの時はうまく行った。

5. CONSEO の活動状況について

早坂副委員長より、資料に基づき CONSEO の活動について説明があった。

6. TF の活動状況について

高橋委員より資料に基づき TF の活動状況の説明があった。

7. 国際的な状況について

① 地球衛星観測をめぐる国際情勢の変化について

沖理子委員が資料（委員限り）をもとに説明した。

高橋委員が AOS と PMM に関して説明した。

Q：開発フェーズはどの段階か？

A：基本設計を終えており、部分エンジニアリングモデル（EM）の開発に入っている。

Q：Libera は生き残ったがこれは放射ミッションであり、INCUS は切られたがどのような観点で分けたのか？

A：継続ミッションを重要視したようにも思える。現状、NASA から情報が入りづらい状況になっている。

② 国際情勢の変化に対する日本の対応について

高薮委員長より「日本の地球衛星観測の国際情勢対応について（案）」について、小委員会で決議したいとの発言があり、提案内容について文言を議論の上、改訂した。その後、下記の内容で出席者全員が決議に賛成した。

「日本の地球衛星観測の国際情勢対応について」

- 地球衛星観測は、科学・社会便益に大きく寄与するように発展してきた
- 昨今の国際情勢の急速な変化は地球衛星観測システムに影響を与える
- 我が国の地球衛星観測計画は、国際的な協力体制も含め、地球科学および地球環境保全に必要な不可欠な観測を最新の技術で実現するため、綿密かつ発展的に策定されている
- 国際情勢の変化により、我が国の地球衛星観測計画の遂行に様々な不確実性要素が浮上する可能性が考えられる
- 日本は、政府、学术界、産業界を挙げて、この不確実性を乗り越え、国益および人類のために必要な地球衛星観測計画を遅延なく推進すべきである

8. 2025 年度の活動について

早坂副委員長より資料に基づき、今後の計画について説明があった。

- 今後 JpGU などの機会をとらえて議論を実施する方向で検討するという方針について、委員から、JpGU 等だけでなく内閣府まで話を持ってゆくのが重要であるという意見があった。

9. その他

① JAXA 宇宙戦略基金について

沖理子委員より JAXA 宇宙戦略基金について資料（委員限り）に基づき説明があった。

Q：宇宙戦略基本計画の工程表との関係はどうなっているのか？すなわち、戦略基金で実施し、政府ミッションとしての工程表には載せず民間衛星として実施するのか？

A：ALOS-3 の後継の例を考えると、工程表に表さずに民間に移行している一方で、JAXA は基本技術の獲得等を実施する。

Q：地球観測衛星の新規ミッションの提案先はどこになるのか、混乱があるように見える。

コメント：ALOS-3 後継については、CONSEO でオーソライズしてあげてゆく流れがある。アカデミアと産業界をつなぐアイデア検討グループを立ち上げている。

コメント：内閣府からみると、トップダウンだけでなく、工程表の後ろの方にボトムアップが入るようになるとよい。

以上